

Interview

松井光子さん

(長岡市中之島在住)

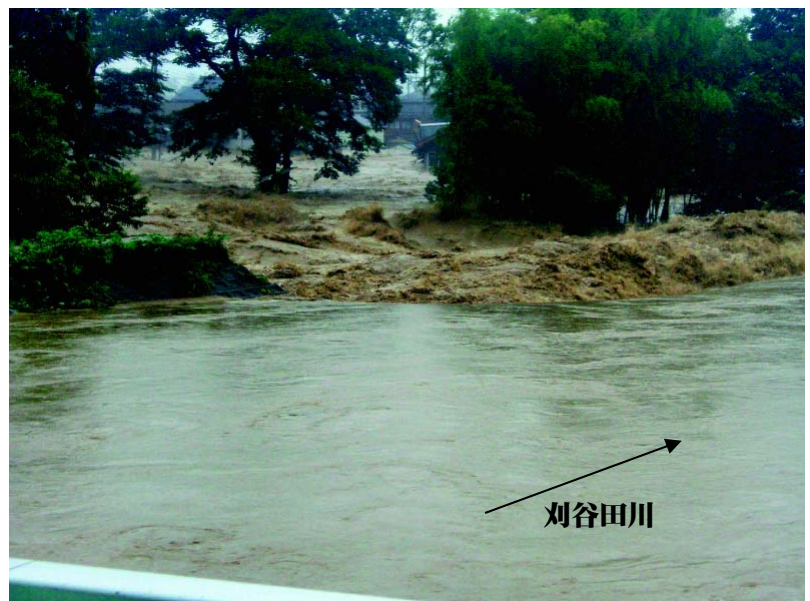
長岡市中之島にお住まいの松井さんは保育所で子供たちを預かる立場で水害を経験しました。少しは落ち着いた今だからこそ話せる当時の状況、水害を経験して思うことなどをお話いただきました。



ある子供のお父さんとおじいさんが迎えに来てくれて、さて帰ろうかというときでした。ふと、玄関の扉に視線を移すと、**ガラス越しに床から 20cm 程の高さまで泥水が流れている様子が見えました。「子供たちが危ない！」**そう思った私たちは 1 階でお昼寝をしていた子供たちを起こして 2 階に連れて上がりました。

2 階にあがった子供たちは眠いのと怖いのが重なり、ほとんどの子供が泣いていました。そのときでした。**「パリン！」という音とともに窓ガラスが割れて保育所の中に泥水が入ってきました。同時に電気が消えて、電話を含む全ての電気製品が使えなくなりました。**

そのときは 66 人の子供と 9 人の職員、一緒に避難してくれたお父さんとおじいさんの 2 人がおりました。「おばあさんに連れられて先に帰った子供は大丈夫だっただろうか・・・？」とふと思いました。が、迫り来る泥水から子供たちを守ることで精一杯でした。



刈谷田川の破堤。一気に濁流が押し寄せた。

携帯電話を使って何度も役場に連絡を試みましたが、非常時のためか、**なかなか電話がつかないのです**。それでもほかに助けを求める手段もなく、数十回目でしょうか、ようやく役場に電話が繋がりました。私は開口一番に聞きました。「**この建物は流れませんよね！？**」「大丈夫だ！とにかく**2階で子供たちをしっかりと見ていてくれ！**」私たちは「**ここで子供たちを守る**」と覚悟を決めました。



中之島市街地の浸水の様子。

幸い保育所 2 階の未満児室に若干の飲み水やお菓子がありましたので、子供たちに少しずつ分けて食べさせました。また、トイレや手洗い水が使えたことも救いでした。衛生上怖くて飲み水としては使えませんでした、それでも幾分か助かりました。

14:30 頃だったと思います。園庭の方を見ると濁流は衰えることがないようで、小屋が流れていく様子が見えました。水位はブランコの天辺がひたひたと水面に顔を出している状態でしたので地上から 2m 以上はあったと思います。「**このまま水が引かないのだろうか。夜になったら真っ暗になり、子供たちの恐怖は頂点に達するのではないか。**」私は大きな不安でいっぱいになりました。後の保護者会では「子供たちはしっかりしていて泣くこともなく・・・」と話したのですが、実際は**恐怖に震える子、涙が止まらない子、抱きついて離れない子がほとんどで、私たちも不安の中、子供たちに「大丈夫だよ。」と声をかけるのが精一杯でした。**

私は再び役場との連絡を試みましたが、「**何とか明るいうちに子供たちを避難させてください！**」「**待ってろ！すぐに県警と自衛隊に連絡するからな！ヘリを回してもらってからもう少し頑張ってくれ！**」ヘリコプターが来てくれればと思いな

から避難方法を考えました。保育所には平屋建ての遊戯室があり、2階から広い屋根に出ることが可能でした。ヘリコプターから救助してもらうならば遊戯室の屋根しかないと考えました。しかし、**2階と屋根の間には転落防止のフェンスがあり、カギを開けようにもカギが保管してある1階は泥水の中**です。このままでは子供たちがフェンスを乗り越えられないため、台のようなものをフェンスに渡して子供たちを1人ずつ抱きかかえて遊戯室の屋根に出ることにしました。

15:30頃、新潟県警のヘリコプターが来てくれました。しかし子供たちは怖がっていました。プロペラの音や風がすごく、また、逞しい救助隊員の姿が怖く映ってしまったようでした。私たちは「あの人は正義の味方だよ。」と子供たちに言い聞かせ、おじいさんとお父さんの助けをかりて順番にヘリコプターに誘導しました。1回の救助でヘリコプターには10人ほど乗ることができ6往復していただきました。最初は新潟県警が、3回目以降は自衛隊が来てくれました。全員が救助されたのは19:00頃、私が最後の避難者となりましたが、園庭のブランコの天辺はやはり僅かに水面から顔を出している程度でした。

最初の救助隊の方に、「どこに避難するんですか？」と聞いたら、「中之島文化センターです」と答えられました。**この保育所から500mほどしか離れていないのに大丈夫だろうかと思ったのですが、実際に避難してみるとまったく水に浸かっていなくて、ビックリしました。**

その日は避難した子供たちの多くと一緒に中之島文化センターに泊まりました。**救援物資の食料や飲み水があり、それに電気がついて明るい場所でしたので、保育所に泊まるよりはるかに良かったです。**子供たち全員を保護者に帰したのは翌日14日のお昼過ぎでした。



激流により押し流されてしまった家屋。

子供を迎えに来られたおじいさんとお父さんが、重い荷物の移動や、ヘリコプターへの誘導を手伝ってくださったから何とか避難することができましたが、**女性だけでは力が足りず困難な場面が多々あっただろうと思います。**

被災後は避難所のスタッフとして従事していましたが、保育所の事が気になり、役場に頼み許可を得て保育所の様子を見に行きました。確か 17 日の朝の事だったと思います。園庭が見えてくるについて、冷蔵庫、テーブル、車、車庫、屋根などが流れ着いている様子が確認できました。園舎の



被災後の保育所の中。壁面は濁流の痕跡が確認できる。

中も泥が堆積し、直径 50cm ほどの丸太が何本も顔を出していました。重たいピアノが転び冷蔵庫が元の場所とぜんぜん違うところにあって、改めて水の恐怖を感じました。私たちが泥出しをしていたとき、現地調査の方々が水深の高さを教えてくださいました。玄関の床から 198cm の高さだそうです。**保育所が平屋建てだったらと思うとゾッとしました。**



被災後の保育所の中。大量の土砂とゴミが流れ込んだ。

私たちは毎日 7:00 に集合し、子供たちのケア、使えなくなった保育所に代わる施設の準備、被災した保育所の始末などにあたりました。帰宅は毎日 24:00 頃、休む暇もなく良く働いたと思います。もっとも**休んでいる暇は無**

かったし、休む気にもなれませんでした。そんな中、保育所の泥出しやゴミ出しのときには多くの方々が手伝いに来て下さって本当にありがたかったです。

水害発生から13日後、ようやく中之島文化センターで保護者会を開催することができました。近隣の2つの保育所に間借りし分散保育をすることなど、保護者の皆さんにご理解をいただきました。子供たちの中には、雨が降ると泣き出す子、抱っこして離れない子がいて、この子達の心の傷を何とかしてやりたいと思いました。



片付けの様子。多くの方が駆けつけた。

その後被災した保育所は大幅に改築し、平成17年1月4日、新しくなった保育所での保育が始まりました。この5ヶ月ほど、遠くの保育所に通うことになり保護者の方々にはご迷惑をお掛けしました。私は新しくなった保育所の勤務を最後に、定年前でしたが退職しました。あの惨状が目に残り今でも保育所に足を運ぶことにとまどいを感じます。

被災直後には、いろんな方々から水害のときの話しをしてほしいとお願いされました。私は「なぜ、こんなときに・・・。」と思い、なかなかお話しする気になれませんでした。今は、あのとき支えて下さった方々のために私にできることがあればと思い、少しずつ話せるようになりました。

被災当時を振り返ると、必需品を整理し非常持ち出し簿を整備し飲料水や多少の食料を備蓄しておくことが大変重要であると感じています。あの水害以来、どこに行くにもおにぎりや水筒を必ず持ち歩くようになりました。そして、日常的にスタッフや地域の方々とお付き合いをすることが、本当に重要なことだと思い知らされました。

退職後しばらく経ってから、保育所を2階建てにしてくれた斎藤元町長の墓前にお参りに行きました。なぜだか涙がこみ上げてきました。理由はわかりま

せんが、子供たち全員が無事だったこと、そして子供たちのお父さんお母さんも全員無事だったことは、今でも心の底から「本当に良かった」と思っています。

私は中之島というところは災害がないと思っていました。それなのに一瞬にして泥海に吞まれてしまいました。本当に辛い経験でした。そういった中だからこそ、地域の方々やボランティアの方々のありがたさが身にしみました。あのときのありがたさは一生忘れることができません。

あれから5年、先日（平成21年6月6日）、刈谷田川で行われた風合戦に行き、地域の方々と言葉を交わしました。

「やっとここまで来たね・・・。」